新理事長に上山氏

県リサイクル事業協組総会

上山一吉新理事長

県リサイクル事業協同組合（小島安範理事長）は25日、鹿児島市のベイサイドガーデンで第11回通常総会を開き、産業廃棄物の一層の適正処理に努めることなどを基本方針とする14年度事業計画を決めたほか、任期満了に伴う役員改選では、新理事長に上山一吉氏（上山建設㈱）を選出した。

新年度事業計画などを決めた総会
＝鹿児島市のベイサイドガーデンで

総会では、初めに小島会長が「業界を取り巻く環境は一段と厳しさを増しており、廃棄物の処理に関する法律は厳しい方向に改善・強化されています。その中にあって、当組合は収集運搬、建設工事など新たな事業に取り組んでいきます。今後、組織の強化を図りながら業績向上のために組合員一丸となって事業推進に努めていきましょう。本日は慎重審議をお願いしたい」と挨拶。

続いて、冨迫茂氏（㈱冨迫組）を議長に選出し議事に入り、13年度事業・決算報告、14年度事業計画・収支予算案などを審議。全て原案通り可決承認したほか、任期満了に伴う役員改選では、新理事長に上山一吉氏を選出した。

新年度事業計画は、①組合組織の充実②組合・会員間の情報提供③収集運搬の運営④建設業の認可⑤官公需共同受注体制基盤整備の推進⑥施設管理の充実⑦会員の拡大－など。

新役員は次の通り。

理事長＝上山一吉▽副理事長＝小島安範（㈱小島建設）木落貞徳（㈱木落建設）羽月信雄（有三恭建設）新谷政昭（㈱加覧組）江藤正幸（㈱江藤建設工業）▽理事＝田島勝三（環境特殊建設㈱）岩澤英美（大英建設㈱）冨迫茂（㈱冨迫組）肥後勝司（中央工業㈱）林東藏（豊明建設㈱）四元逸男（有外城戸建設）山下理（山理建設）大塚勝久（大塚建設㈱）川原和人（マル川建設㈱）南洋（㈱南組）神宮司修一（㈱司工業）今徳健一（㈱大慶建設）内山徳明（㈱内山武組）牧迫英敏（牧迫建設㈱）大城健彦（員外・組合工場長）小濱賢一（員外）▽監事＝瀬戸利孝（協和機材㈱）森田五男（㈱森田産業）

法面3団体合同ゴルフコンペ

内倉さん（日本乾溜工業）が優勝

全国特定法面保護協会県支部（久保公忠支部長）、鹿児島法面保護工事業協同組合（森辰郎理事長）、県法面工事業連合会（熊谷慶喜会長）の法面3団体合同ゴルフコンペは25日、日置郡松元町の鹿児島ガーデンゴルフ倶楽部で開かれ、36人が参加して親睦を図りながら熱戦を繰り広げた結果、内倉貢さん（日本乾溜工業）がネット70・2で優勝、ベストグロス賞も合わせて獲得した。

ホールアウト後の閉会式では、3団体を代表して森理事長が挨拶した後、表彰式に移った。優勝した内倉さんは「昨年は同ネットで優勝を逃した。同伴競技者にも恵まれ、楽しいゴルフができ、ベストに近いスコアが出た」と話した。最後に牧清一郎連合会副会長の一本締めで大会を終えた。

主な成績は次の通り。

優勝＝内倉貢▽準優勝＝牧清一郎（大隅機工）3位＝山口勝信（連合会事務局）▽4位＝原口正昭（ロックフェイス）▽山口良治（林建設）

待望の優勝を喜ぶ内倉さん＝松元町の鹿児島ガーデンゴルフ倶楽部で

九州電力鹿児島支店奉仕活動

天文館電車通りを清掃

九州電力㈱鹿児島支店（小田原智一支店長）は25日、鹿児島市の天文館電車通り付近で清掃活動と開閉器塔の落書き落としを実施し、同支店配電部の職員ら約30人が地域への感謝活動として空き缶拾いや落書き落としを行った。

同社では、地域とのふれあい活動を通じて、信頼のきずなをより深めるために、毎年10月に「九電ふれあいキャンペーン」を実施。今年度も18日から31日までの期間中、それぞれの職場でさまざまな取り組みを行っており、同支店では今回、加治屋町交差点からいづろ交差点までの電車通りの両側歩道部での清掃活動を実施したもの。

参加者らは、4班に分かれて植樹帯や交差点付近に捨てられた空き缶やペットボトル、ビニール袋、吸い殻など分別しながら拾い集めたほか、通行人に配慮しながら地中配電機器（開閉器塔など）にマジックやペンキで書かれた落書きをシンナーできれいに落としていた。

それぞれ拾い集めたごみはポリ袋7袋ほどになり、落書き落としをした開閉器塔は合計で39基にもなった。

同社総務部広報グループの二見伸一副長は「初めての試みだったが、来月行われるおはら祭りにも貢献できたのでは。これからも地域への奉仕活動を積極的に行っていきたい」と抱負を語った。

開閉器塔の落書きを落とす参加者＝鹿児島市天文館で

建屋経済同友クラブ等

PFIと桜島架橋講演会

技術・コストで建設可能

PFIと桜島架橋講演会（日本PFI協会・鹿屋経済同友クラブ共催）は24日、鹿屋市のかのや大黒グランドホテルで開き、参加した約200人の会員らはPFIへの理解と橋梁への活用を学ぶと共に、桜島架橋は十分建設可能との講義に、今後、地元の熱意を盛り上げていくことを確認した。

PFIの橋梁への導入を講義する植田専務理事＝鹿屋市の大黒グランドホテル

講演では、主催者の田中俊實同友クラブ会長が「当初、断念していた桜島架橋も技術の進歩、コストダウン、採算面等々から十分可能になってきた。本日そして実現性のある講義をして頂くので、今後の大隅半島振興のため熱心に聞いてほしい」と挨拶。

続いて、地元で過去2回、桜島架橋について講演をした㈶海洋架橋調査会の駒田敬一専務理事が、「技術面では十分。あとはコストをどれだけ下げられるか、費用対効果、事業手法と費用負担、地域の交流連携、自然環境保全等の課題が残る」と説明した。

この後、「我が国のPFI事業は発案から実施方針策定までが大事で、地域のコンセンサスを形成することが…」和男専務理事が講演。全国各自治体での先進事例を紹介し、「PFIの目的は公共事業のライフサイクルコストの縮減が目的で、PFIを理解した上で、これを橋梁に使えないないかと検討するのが順序である」と話した。

また、前田建設工業㈱の東山基課長は、PFIの先進国・イギリスのスカイブリッジ建設を紹介しながら、PFI事業は発案から実施方針策定までが大事で、地域のコンセンサスを形成することが…

街路樹剪定士認定研修会

県内外から70人参加

日造協県支部

日本造園建設業協会県支部（丸山重之支部長）は23日から25日までの3日間、姶良郡加治木町の加音ホールで本県では初めてとなる14年度街路樹剪定士認定研修会を開き、県内外から受講資格者約70人が参加し、資格取得を目指して剪定に係る講習、学科・実技試験を受けた。

資格取得を目指し、実技試験を受ける参加者
＝加治木町加音ホール近くの沿道で

同試験は、剪定基準を明確にし、技術力向上を目的として、11年に「街路樹剪定士認定制度」を発足。同協会が行う資格試験に合格すると「街路樹剪定士」の認定を受けられるもので、今回、初めて本県で開催された。

最終日の25日は、午前9時前に加音ホール近くの沿道に集合。ナンキハゼ、タブノキ、クスノキ等の実習木を用いて、剪定、実行能力、安全衛生管理等の実技試験が実施された。実技中、5人の街路樹剪定士指導員が、統一美や作業時の安全管理、基本に沿った剪定がなされているか等を審査した。

今回の学科・実技試験の結果は、同協会東京本部で最終判定を行った後、